

救急医学系救急集中治療医学分野

1) 教室の概要紹介

日本大学救急医学教室（日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野）は1992年に設立された教室であり、都内2カ所の大規模な救命救急センターを擁しています。板橋病院救命救急センターの年間の3次救急患者数は約2000例であり、東京都内でもトップクラスの取り扱い患者数を維持しております。重症外傷、脳卒中、心血管疾患（急性心筋梗塞、大動脈疾患）、急性腹症、急性中毒、重症熱傷、急性心不全、急性呼吸不全などの重症患者に対する初期治療・手術・集中治療管理（呼吸・循環管理、感染制御、栄養管理、血液浄化療法など）を得意分野としています。これらの初期診療と超急性期の集中治療を通じて、医師であれば誰もが行わなければならない救急処置法を確実に修得し、“どのような年齢層においても全身を診ることができる医師”の育成に力を入れております。

緊急手術や各種血管内カテーテル手術・治療などは、救命救急センター内に併設してある血管撮影室・手術室（図1および2）で行うことが可能です。集中治療室（図3）としてICU、HCU、BCU（burn care unit）以外に、CCU（coronary care unit）、SCU（stroke care unit）を擁する救命救急センターは少数であり、一般集中治療とともに急性冠疾患、脳卒中などの診療修練ができるのも当救命救急センターの大きな特徴です。特に重症で緊急度の高い妊産婦や小児の救急診療に対しても力を入れており、東京都より都内4カ所しかない「スーパー総合周産期センター」と、都内4カ所しかない「こども救命センター」の両センターの指定を受けている都内唯一の施設です。産科、小児科との協力体制の下、これからの将来を担う母子の救命に日夜努力をしております。

お茶の水にある日本大学病院救命救急センターは昭和53年に当院の前身である駿河台日本大学病院において東京都内で6番目の3次救急施設として救急医療センターを開設しました。平成3年に救命救急センターに移行し、千代田区で唯一の救命救急センターとしてこれまでの約40年間に3万人余りの重症患者さんを収容し治療した実績があります。急性冠症候群・心不全・急性大動脈解離・肺塞栓症などの重症心血管緊急症、急性肝不全・急性呼吸不全・急性腎不全などの重症疾患で臓器不全のため集中治療が必要な疾患、外傷による各種臓器損傷、脳出血などの中枢神経系疾患、重症急性膵炎・消化管穿孔などの急性腹症、急性大動脈解離、重症敗血症等幅広い重症疾患を他科と連携しながら診療しています。また、2次救急の初期診療も施行しており、ERでの救急疾患の軽症から重症までのあらゆる症例に対応しています。



図1：救命救急センター内の手術室



図2：手術風景



図3：集中治療室

日常のスケジュール

- 8時～ 病棟回診
- 9時～ 前日の対応症例の検討会
- 16時（平日）、14時（土曜日）～ 夕回診 その後当直体制
- 月曜日朝 医局会、勉強会
- 月曜日昼 説明会
- 月曜日午後、木曜日午後 全体の症例検討会及び部長・科長回診
- その他勉強会、セミナー、カンファレンス等随時

当教室でできること

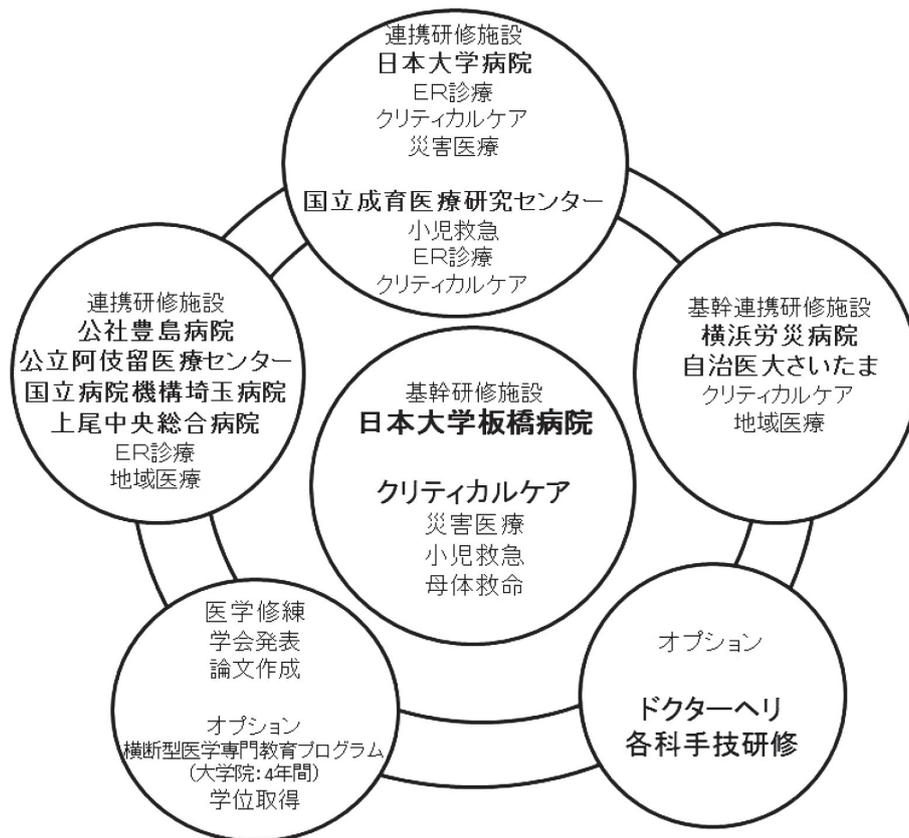
- 多種多様な疾患を診療できる。
- 小児、妊産婦の重症患者を経験できる。
- 各疾患・病態のプライマリーケアができる。
- 限られた時間・資源の中で適切に診療する技術が身につく。
- 自らの手で“命を救った”という実感が得られる。
- 様々な救急診療技術及び集中治療技術（心肺蘇生法、外傷初期診療、電氣的除細動、気管挿管、気管切開術、人工呼吸器管理、中心静脈カテーテル留置、観血的動脈内圧測定、経皮的心肺補助装置、胸腔・腹腔ドレナージ、血液浄化法、カテーテルインターベンション、緊急手術、輸液管理、栄養管理等）を身につけられる。
- 救急医学・集中治療医学に関する研究を行い、学会発表や論文執筆ができる。
- 『医学博士』の学位取得ができる。
- 救急科専門医、集中治療専門医が取得できる。
- 災害医療（DMAT）に参画できる。
- 種々の研修コース（アメリカ心臓協会（AHA）の種々の心肺蘇生法、救急心血管治療に関する資格、日本救急医学会 ICLS 研修コース [内科認定医、麻酔科専門医、救急科専門医、循環器科専門医などの専門医資格を取得するために必要]、JATEC、JPTEC 等）を主催し、自施設内で修了資格取得及びインストラクター経験ができる。

2) 後期臨床研修プログラム(教育システム)と専門医、指導医、学位の取得

1. 日本専門医機構による専門医制度（3年間）
2. 大学院医学研究科 横断型医学専門教育プログラム
3. 短期研修コース（1・2年間）
4. 小児科専門医を対象としたコース

1. 日本専門医機構による専門医制度（3年間）

卒後2年間の初期臨床研修修了後、3年次より救急医療および集中治療の後期臨床研修に入ります。当教室の後期臨床研修は、日本専門医機構による専門医制度に沿って行われます。日本大学救急科専門研修プログラムは、医学部本院に併設された救命救急センターを基幹病院として、大都市の救命救急センター（合計4カ所）での研修が可能です。また都市型ERや山間部での1・2次救急研修も充実しており、オプションとしてドクターヘリ研修や、救急に必要な手術・麻酔・内視鏡等の各科の手技の獲得も可能で有り、様々な環境での救急医療を経験できるプログラムになっています。



基幹病院である日本大学医学部附属板橋病院では「東京都子ども救命センター」「母体救命対応総合周産期母子医療センター」の指定を受け小児や産科救急の研修も可能です。また、救急搬送患者に対応できる医師（ER 医）の育成だけでなく、危機的病態に対する集中治療（クリティカルケア）を担当できる医師を育成していきます。初期治療後の全年齢層（小児から高齢者まで）におけるクリティカルケアに重点を置き、必要に応じて各専門医との連携を行い、最後まで主治医としてその治療を継続できる技術と知識を養うことができる研修を計画しています。さらに、それぞれの研修病院では、災害拠点病院や DMAT 出動等の体制構築を行っておりますので、それに加わることで災害医療に対する知識・技能を涵養することができます。

2. 大学院医学研究科 医学専門教育プログラム

もう一つの特徴は、救急科専門医と並行した医学博士（学位）の取得が可能であることです。日本大学大学院医学研究科には医学専門教育プログラムがあります。大学院に通いながら、救急科専門医取得を目指すことが可能です。医学研究を行いながら臨床の力も涵養したいという方にはお勧めのコースです。詳しくは日本大学医学部横断型医学専門教育プログラムのホームページ (<http://www.med.nihon-u.ac.jp/postgraduate/program.html>) をご覧になり、詳細についてはお問い合わせください。

3. 短期研修コース（1・2年間）（旧制度での専門医申請を含む）

救命救急センターでの研修を凝縮した1年コース及び2年コースを設定しました。いずれのコースも研修者の将来や希望に応じて柔軟に研修コースを設定できます。1年コースは救急初期診療1年研修または集中治療1年のコースとし、2年コースは救急初期診療および集中治療を組み合わせた独自のコースを作成しました。1年および2年コース終了後に、救急科専門医、集中治療専門医を取得するためのコースへの変更も可能です。

4. 小児科専門医を対象とした研修コース

本学では小児科専門医を対象とした有給定員を救命救急センターに別途設定しております。小児科専門医を有し救急科専門医・集中治療専門医を目指す医師には最適な環境と言えます。

5. 社会医学系専門医の取得

本学は日本大学社会医学系専門医プログラムを有しており、プログラムに参加することで社会医学系専門医取得が可能です。救急医としての使命感、倫理性、人権尊重の意識、公共への責任感を持ちつつ、社会医学を基盤とした保健・医療・福祉サービス、環境リスク管理および社会システムに関する広範囲の専門的知識・技術・能力を修得することによって、世代・生涯にわたる健康面での安全、安心の確保と向上に寄与するリーダーシップを発揮しながら社会貢献するキャリア形成が可能です。

詳細についてはホームページ

(http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/eccm/program.html#hosp_nw) をご覧ください。

問い合わせ先

医局長：桑名 司（くわな つかさ）
日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1
TEL：03-3972-8111（内線 2800）
FAX：03-5964-8037
E-mail：kuwana.tsukasa@nihon-u.ac.jp